

心の散歩道

鏡は生活の中で無くてはならぬものの一つになっていますが、そもそも鏡は私達の姿を映し出すだけのものではなく、古来宗教的な意味を持ち、神秘の力を秘めたものとして用いられ、中国では鏡には霊力があるとさえ考えられていました。我が国でも神社の御神体が鏡であることはよくあることで、神聖なものとして取り扱われ、すべてのものを照らし、善悪の姿を映すものとして、正直な心の本源と意義づけられています。鏡が世の中を全てありのまま映し出すところから、仏さまの智慧を表すこともあり、殊に大日如来の五智の一つとして大円鏡智があります。私達が日頃何とも思わず使っている鏡も、このように色々な意味があり深く考えさせられます。

私達の姿を何の飾り気もなく正直に映し出してくれるその鏡は、身体の表面の姿を映すばかりでなく、心の相をも否応なく現していることに気付かねばなりません。心浮き立つ嬉しい時は晴れ晴れとしているでしょうし、何か嫌な、つらい悲しい思いの時は必ず暗い影がさしている筈です。つまり、心の塵が曇りとなって現れてくるのです。もともと全ての人の心は清らかです。しかし、現代のように変化の激しい混迷の時代に暮らしていると濁ってくるのも当然です。最も恐ろしいことは、心が曇っていても自分では気付かないということです。世の中、不景気だ！デフレだ！と騒がれ、日本が沈没しそうな様相が多く取り上げられますが、昨年、セブンイレブンは、世の流れとは別に、高価なおにぎりを販売して爆発的な人気を得ました。お母さんの握ったあのおにぎりの様に、手間暇をかけ、頬張ると美味しさの余り微笑みが現れる様な、心を映し出すおにぎりです。生活でもビジネスでも、鏡に我を映し、自身の姿を如実に知ることが肝要ではないでしょうか。何処かのお偉い方のように、今の姿に安住し、心が曇り、本質が見えない様では、会社は良くなりませんよね。

『鏡に映る我が姿、つんと澄ませば向こうも澄ます。

睨み(にらみ)返せば睨んで返す。ほんにこの世は鏡の影よ、泣くも笑うも我次第』と申します。また、お大師様は、『心暗き時は即ち遇う所ことごとく禍(わざわい)なり、眼(まなこ)明らかなる時は途(みち)に触れて皆宝なり』と教えられています。

多忙な時代に、その様な心のゆとりがないと言われるでしょうが、多忙な時代だからこそ、一層心の修養が必要ではないでしょうか。

合掌

